活躍する卒業生　第３１号　平成 30 年 1 月 31 日(水)

◇　今回は、高校教諭の村井独歩さん（岐阜大学大学院卒）のレポートです！

私は、現在、高山市の公立高校で教師として働いています。家族や親戚に教師が多いこともあり、小学校の頃から将来の夢は教師でした。皆さんは１０年後の自分を想像できますか。私は１０年前に想像したと今の姿はほとんど一致しています。一日の時間は誰でも平等に２４時間ですが、この２４時間を無駄なく、計画的に、自分のやりたいことのために使ってきたからこその結果だと思っています。当然計画通りにいかないこともありますが、それでもめげず、自分のやりたいことを職にできた私の話が、少しでも後輩である皆さんのためになることを願い、このレポートを書かせていただきます。

テニスへの情熱

関高校へ入学した当時は中学校に熱中していたソフトテニスを教えるために、中学校の教員となることが目標でした。しかし、一緒にソフトテニスをやっていた友達に誘われ、テニス部へ入部することになり、そこからはソフトテニスよりもテニスに熱中していきました。

テニス部は当時から、部員数がとても多い部活で、試合に出られるのはその中でも限られた１０人程です。そのため、大会に出るには、校内戦で勝ち上がらなければなりません。やっと地区予選に出れると思っても、他の学校でも同じように選ばれた人しか出られないわけですから、ソフトテニスの時に比べてレベルが高いと感じたことを覚えています。さらにその地区予選の中から６人程度しか県大会へ出場できません。

こうした狭き門に加え、テニスにはジュニアと呼ばれる人たちもいました。小さいころからお金をかけテニスを学んだ来た人たちです。この人たちの強さは桁違いでした。このようなテニス界の事情に負けず嫌いな私は燃えました。皆さんも感じているように関高校は忙しい学校です。私よりも長くテニスをやっている人たちに勝つには、限られた時間で、その人たちよりも効率的に、かつ練習時間も限界まで確保しなければならないと考えました。そのため、毎朝学校の門が開くと同時に校舎に入り、たとえ一人でも欠かさず自主練をしました。授業が終わり、部活も終わると、近所の公園で暗くなるまで壁打ちをし、その後家の駐車場で１０００回素振りをし、中池までランニングするということを続けました。その甲斐あり、最終的に県のランキングで１２位になることができました。ソフトテニスから始めた人の中ではトップの成績でした。さらに幸運なことに、一緒に頑張る仲間にも恵まれ、県大会で２度も団体戦で３位になりました。

このような素晴らしい部活の経験を将来生徒にさせてあげたいと思い、高校でテニス部の顧問をしたいと思うようになりました。高校でテニス部の顧問をするためには教員採用試験に合格する必要があります。教員採用試験を受けるためには教員免許状が必要です。したがって、教員免許状が取得できる大学へ進学しようと考えました。

高校の教員免許状には教科があります。当然テニスという教科はありません。どの教科にしようかと考えた時に、教員採用試験の合格人数が多い数学にしようと考えました。当時の私は、数学が好きというわけではなく、テニス部の顧問になるための手段として最も効率的な数学を選んだのです。さらに、

岐阜県のテニス界ともっと人脈を作り、自分の実力も上げ、将来生徒に教える時の糧にしたいとも考えました。そのために、岐阜に根付ける大学を目指そうと思いました。これらの条件に合致したのが岐阜大学の教育学部数学科でした。

目標通り岐阜大学に進学した私は、当然のようにテニス部に入部しました。そこは、今まで経験したことのない厳しい縦社会であり、同時に厳しい競争社会でもありました。特に伝統的な練習がとても厳しかったです。高校時代は皆で同じメニューをこなしていくという練習でしたが、大学では、実力順に上から１２名がコートで練習し、１年生は全力ダッシュでボール拾い、それ以外の部員はコートの周りを囲んで喉がかれるまでファイトファイトと声出しをします。初めて見た時はなんて非効率な練習なのかと思い、初めてボール拾いをやった時は、今までにないくらいきつかったです。

１年生でこのボール拾いから抜け出す方法がひとつだけあります。それは先輩たちを倒し、自分が上位１２人に入ることです。そのために高校時代と同様に毎日授業前に朝練をし、授業がない時間は全てテニスコートにいました。その結果、夏頃には上位１２人に入ることができました。

練習する側になると、この練習はとても重いものだと気付かされます。自分のミスのせいでボールを全力で拾いに行く同期、自分が練習するせいで周りで声出しをしなければならない先輩方。この姿が目に入る度に、もっと集中しなければと思わされ、プレッシャーがかかり、身体が縮こまります。適当にプレーするなんてことは絶対にできませんでした。

この練習を続けていくうちに、非効率極まりないと思っていたこの練習方法がとても効率的だということに気付き始めました。上位１２人はこの重圧のある中で練習できるため、質の高い練習をできます。また、ボール拾いや周りで声出しをする人は、私がしたように、何としてでも上位１２人に入ろうと努力をします。結果として、部活全体の実力が上がるという構図です。（写真１）伝統には伝統たる所以があるということを実感し、この厳しい練習を一緒に乗り越えた仲間との深い絆を得ることが出来ました。

写真1　岐阜大学テニス部の集合写真

大学院、そして教員へ

大学では授業もしっかり受けていました。高校よりも高度な数学が全く理解できませんでした。しかし、解析学という、身近なこと現象を数学で解決するという分野には興味を持ち、もっと数学が学びたい、そして生徒に数学が役に立つということを伝えたいと思い、岐阜大学の大学院へ進学することを決めました。大学院の試験と平行して教員採用試験も受け、無事にどちらも合格させていただき、教員になれる資格を持ったまま、さらに２年間大学院で勉強させてもらいました。

大学院に在籍中に、なんと関高校から、非常勤講師として数学の授業を受け持って欲しいとのお話を頂き、大学院で学んだ知識を関高生に還元しつつ、関高生の生の声を聞き、自分の研究に活かすことができるというとても贅沢な時間を過ごさせていただきました。その上、テニス部の OB という立場で頻繁に部活の指導のお手伝いもさせていただきました。（写真２）このような恵まれた２年間を過ごし、無事に大学院を卒業し、とうとう夢であった教員として正式に働き始めました。

写真2　非常勤時代の関高校での最後の部活

教師として働いてみると、想像していたよりもやりがいがあり、その分やはり忙しいです。その中でいつも考えていることは、自分の培ってきた専門を生徒に還元することです。日々専門性を磨き、生徒にふさわしい形で還元する。これが教師の醍醐味だと思います。

数学の教員として数学の専門性を高めることは当然です。それに加え、私はテニスの専門性にもこだわっています。部活で指導するには、自分がもっと強くなってもっと上のステージに行きたいと常に思っています。そのためには、自分のテニスの時間、トレーニングの時間を確保しなければなりません。

そこで私が実践していることは早寝早起きです。人間の体がもっとも成長する２２時～２時の間に寝ていられるように、２２時前に寝始めます。人間の体は１．５時間刻みでレム睡眠とノンレム睡眠を繰り返すので、この境目である１．５時間の倍数の時間で起きると目覚めがいいと言われています。なので６時間の睡眠時間を確保し効率的に体を回復させ、毎朝４時に起き、一日にやるべきことを始めます。やるべきことを早めに終わらせ、早く帰ることで、夜に自分の練習の時間が捻出できます。土日も早朝６時から自分の練習を行ってから、部活の指導や補習に向かいます。（写真３）

学生時代の方がテニスに懸けられる時間は多かったですが、いまだに実力が上がっている実感もあり、実際に結果も残せています。このようにまだまだ成長することで、テニスや数学の専門性を生徒へ還元することができます。

しかし、生徒は数学、テニスだけを学べばいいわけではありません。他にもたくさんのことを知りたいでしょうし、教員以外の夢を持つ生徒はたくさんいます。そのような生徒に対して私がしてあげられる指導は限られてしまいます。そこで困らないように、私は、テニスを通じて出会ってきたたくさんの仲間たちに助けてもらいます。テニスでの仲間たちの中には、医者もいれば、県職員もいれば、研究者だっています。この仲間たちの専門性を生徒に伝える場を設けることで、私にない専門性を生徒に還元できます。この場を作る方法のひとつとして、自分でテニスの練習会を企画し、高校生や大学生や社会人が交流できるようにするといった活動も行っています。（写真４）

写真3　県民体育大会　高山代表

写真4　高校生、大学生、社会人を巻き込んだ練習会

ここまで長々と書かせてもらいましたが、高校生である皆さんに伝えたいことは３つです。１つ目は時間とは自分で作るものだということです。やるべきことをきっちりこなし、時間を作ることで、やりたいことに時間を使え、思うように成長することが出来ます。２つ目は人との繋がりの大切さです。色々な人と知り合い繋がることで、その仲間が様々な場面で助けてくれます。何でもできる完璧な人間は存在しないと思います。なので自分にない能力を持った人に支えられ、時には自分が支えることで私たちは生きているのだと思います。３つ目は能力を向上させることです。例えば学力であれば、東京大学へ進学できる学力がある人は、東京大学以外の進路を選択することができます。しかし私の学力では東京大学を選択することはできませんでした。やりたいことをやるためには、学力だけに限らず、それ相応の能力が必要となります。なので目標がある人はぜひ選択できるだけの能力を得られるように日々励んで下さい。将来の目標がない人もいると思います。そういう人は将来何か目標ができたときに選択できるように力を蓄えておくべきです。

私はやりたい職業をやらせてもらえている幸せな人間です。しかし、テニス仲間には仕事が嫌で嫌で仕方なくても、週末のテニスのため、家族のために仕事をしている人が何人もいます。その方々はテニスを本当に楽しそうにやられていますし、家族との時間が本当に幸せそうです。何をもって幸せなのかというのは個人個人で違うと思うので、仕事だけが全てだとは思いません。高校生である皆さんは無限の可能性を秘めています。１０年後に後悔しないように日々を精一杯生きてください。また、関高校という先人たちが大切に繋いできた素晴らしい学校の伝統に誇りを持ち、後輩たちに継承していってもらいたいと思います。

関高男子テニス部OB会